



明石天文館見学と「兵庫の海の現状とこれから」 報告Aグループ

1, 日 時 11月 17日木曜日 9時 50分

2, 集合場所 JR 明石駅 中央出口

3, 参加者 (13名)

行先：明石市立天文科学館 兵庫県水産会館

明石駅に9時 50分、13名が集合し明石天文科学館まで 20分ほど歩く。10時 10分に到着する。明石市天文科学館は日本の標準基準となる子午線上の天文科学館で、天文科学館の 54m の塔は日本標準時子午線の標識となっている。1960年に開館、JR神戸線、山陽電鉄本線からもよく見え明石市のランドマークとなっている。プラネタリウム投影までの 11時 10分まで 14、13階の展望台で 360度の景色を楽しみ、4、3階の展示物を見学する。

プラネタリウム室に入り学芸員の説明が始まる。東西南北を確認、天体の説明が始まる。銀河系太陽系を含む多数の恒星を主体とする

天体の集団、地球もその一つの星である。

凸レンズ状の渦巻銀河、棒状渦巻銀河で回転している、、、聞いても理解できない事が多く残念（私の頭）。大阪の空では見ることができない天の川、天の川は、地上から観察される銀河系の姿である。



兵庫県水産会館へ移動し会館の部屋で昼食、「兵庫の海の現状とこれから」の話を兵庫県漁業協同組合連合会の樋口さんにお願ひする。近年漁獲量一位を誇っていたタコ、イカナゴが減少している、

海苔が悪い等々どうしていきべきか、漁業者の取り組み、役割、消費者にできること、海底耕耘など有意義な話でした。チッソ、リン、植物プランクトン、動物プランクトン、小さな魚類、大きな魚類という三角形の植物連鎖は、海の講座、大阪湾生き物調査と関連して日頃からの「森と海の自然科」の活動に自信を持てた素晴らしい一日でした。

伊藤さん、案内、手配等お世話をおかけしました。

ありがとうございました。

